

特養・医務



桜が見ごろのなか新年度を迎えました。

本年度も3名の新入職員を迎え、気持ちも新たに頑張っています。

現在、特養職員は、介護職員35名、看護職員5名、生活相談員1名、施設ケアマネジャー1名で入所・短期入所の皆様の日常生活の援助をさせていただきます。

年末～2月にかけてインフルエンザが全国的に流行しました。日常の体調管理や発熱時など早期対応によって、当施設では多数の感染者の発生もなく、流行シーズンを終えることができました。

2月には「節分」。「鬼は～そと。福は～うち。」と皆で邪気を祓うところですが、今年はインフルエンザ対策のため、鬼さん役の職員が居室を回って、おやつとお茶のサービスをしました。皆さん突然の「鬼さん」登場にびっくりしたり喜んだり！

3月には「ひな人形展」を観覧しました。紫を基調にした高貴な今流行のお雛様の前では、しばし見とれていました。

4月にはお花見を予定しています。近くの公園へ桜を見に行ったり、はなぞの園のベランダでお花見弁当を召し上がっていただく予定です。

入所者・利用者の皆様の笑顔が私たちの励みです。これからもご家族と共に、心穏やかな生活の支援をしてまいりますのでよろしくごお願い申し上げます。



初釜



節分



「やめられない、とまらない。」「夕食が食べれなくなっちゃいそう。」月2回オープンの『はなぞの喫茶』は数ある楽しみの一つ！好みの飲み物にお茶菓子を添えて、どうぞ召し上がれ♡



（ゆめタウン高松）
外出



老人介護支援センター

「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

1月30日（金）、支援センター相談協力員・地域の皆様を対象に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。

高松市地域包括支援センター 中村氏とはなぞの園老人介護支援センター 稲木・川田が講師となり、認知症に関する講演を行いました。

「認知症サポーター」とは“なにか”特別なことをする人ではありません。認知症について正しい知識をもち、認知症を理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のことです。

認知症は、老後の最大の不安となり、超高齢化社会をつき進む日本にとって最重要課題の一つとなっています。

認知症の人や家族が住み慣れた地域で安心して暮らすためには、周囲の人々の理解が必要です。地域では関係機関等が連携して、認知症の人々を含めた高齢者を、支えていく必要があります。



はなぞの園老人介護支援センターでは、これからも「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症サポーターの輪を広げていきたいと考えています。団体での会合など地域へ出向いての開催もさせていただきますので、興味・関心がある方はお気軽にご相談ください。



認知症ばあちゃん役の川田ケアマネと、きつ〜い嫁役の稲木ケアマネ。熱演でした。



ご卒園おめでとう

3月3日、はなぞの園老人デイサービスセンターを代表してO様・T様が今里保育所へ卒園祝いをお届けしました。「ぞうさんチーム」27名の園児たちは、月1回来園して元気な声や、かわいいプレゼントでデイサービスの皆さんと交流しました。

4月からは新1年生、小学校に行っても笑顔と元気を絶やさず頑張られることを願っています。ありがとうございました！！



1～3月 行事報告



ボラえもんの皆様
1・3月誕生会



2月誕生会
さぬき民俗芸能保存会の皆様



（デイサービス）
今里保育所交流
おやつ作り



初詣



高松市立木太中学校
体験学習

ケアハウス 入所者懇談会

今冬はインフルエンザの大流行で当施設においても感染対策に奔走しました。2月3日「ケアハウスはなぞの」の懇談会でインフルエンザと感染性胃腸炎（ノロウイルス）予防をテーマにして感染予防の協力をお願いしました。

「かからない・うつさない」を合言葉に、みんな元気で暮らせるよう気持ちをひとつにして熱心に耳を傾けていました。

「今年の花見はどこへ！」と心が浮き足立つ季節になりました。健康に感謝しながら、花や団子を楽しみたいものです。



抹茶で健康作り



抹茶にはカテキン類、ビタミン類、食物繊維などが含まれ、疲労回復・リラクゼーション・リフレッシュ効果があるそうです。ケアハウスでは好評の「抹茶クラブ」を毎月開催し、抹茶で健康作りを心がけています。

